

「監査におけるテクノロジーの活用について」概要 (報告書 3 ページ目 Overview and Key Messages 仮訳)

監査におけるテクノロジーの活用は、世界的なテクノロジーの急速な進歩を背景に、引き続き IFIAR の重要な検討課題となっています。監査法人が活用しているテクノロジー・プラットフォームや、監査業務における自動化ツール (ATT : Automated Tools & Techniques) の進展が見られるところ、IFIAR は、これらが監査品質に及ぼす影響を注視しています。

2024 年は、これらテクノロジーの発展を深く理解するとともに、監査法人が、生成 AI を含む AI を監査でどう活用していくのかを調査することに重点を置いてきました。IFIAR メンバーは、監査が進化し、テクノロジーが将来の監査プロセスに適切に実装され監査品質を高めることを支持しています。そのため、監査法人が高度なテクノロジーを開発・導入・活用するにあたり、監査品質の強化を最優先にすることが重要です。そのためには、新しく、安全かつ耐性のあるインフラを整備し、既存のシステムや仕組みを時代に即して更新していくことが不可欠です。IFIAR は監査法人に対して、以下の点を推奨しています：

- 1) テクノロジーが監査品質に与える影響をよく理解し、グローバルネットワーク、各国の監査法人、監査チームといったあらゆるレベルで適切に監視・管理できるよう、必要に応じて業務プロセスを進化・再設計すること。
- 2) 監査品質を大きく高める効果がある ATT の導入と普及を優先すること。
- 3) AI や生成 AI の導入にあたっては、適切な管理体制と監視の仕組みを整えるとともに、AI 又は生成 AI を活用すること。これは、AI の入力や機能、出力結果に透明性があり、説明可能であるほか、期待どおりに動くことを確認する仕組みを含みます。
- 4) 監査法人と監査チームが適切な訓練を受け、AI の判断や監査意見等に係る意思決定に責任を持ち、テクノロジーの活用を適切に管理することを確保する必要な対策を講じること。

また、IFIAR は、財務報告システムに関わる全てのステークホルダーに対して、テクノロジーの進歩が財務報告に及ぼし得る影響を理解するよう促しています。同様に、IFIAR は財務情報がどのように統合され、報告され、監査されるのかを理解し続けることをステークホルダーに促しています。